

陸上競技選手はズレをどのように語るのか

吉岡 俊樹 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 豊田則成

キーワード：ズレ 理想 現実 等身大の自分

1. 緒言

本研究の目的は、陸上競技選手は「ズレをどのように語るのか」というリサーチクエスチョン(以下 RQ と略す)を設定したうえで、質的にアプローチをし、発展継承可能な仮説的知見を導き出すこととした。

2. 研究方法

情報提供者は、本学大学陸上競技部員 10 名であり、1 対 1 形式の半構造化インタビュー(1 時間程度)を複数回実施し、その会話の内容を録音した。録音データを基に逐語を起し、逐語を質的研究法の代表的な手法であるグラウンデッドセオリーアプローチ(以下 GTA と略す)を用いて分析をした。

3. 結果及び考察

分析の結果、「陸上競技選手は、①理想に向かって取り組む中で思うようにいかない現実

に直面し、ズレを感じる。そして、②そのズレにショックを受け、等身大の自分を受け入れることができない。そこから、③等身大の自分に折り合いがつくことによって、ズレを意味づけ、自分らしく取り組もうとする。」と語る。」という仮説的知見を導き出した。

本研究により導き出された概念図を図 1 に示す。

4. まとめ

結果及び考察から、陸上競技選手は「思うようにいかないズレがあるからこそ、自己と向き合うことができ、自分らしく取り組もうとする。」と言える。

引用・参考文献

為末大 2012 走りながら考える 人生のハードルを越える 64 の方法 ダイヤモンド社 1-214

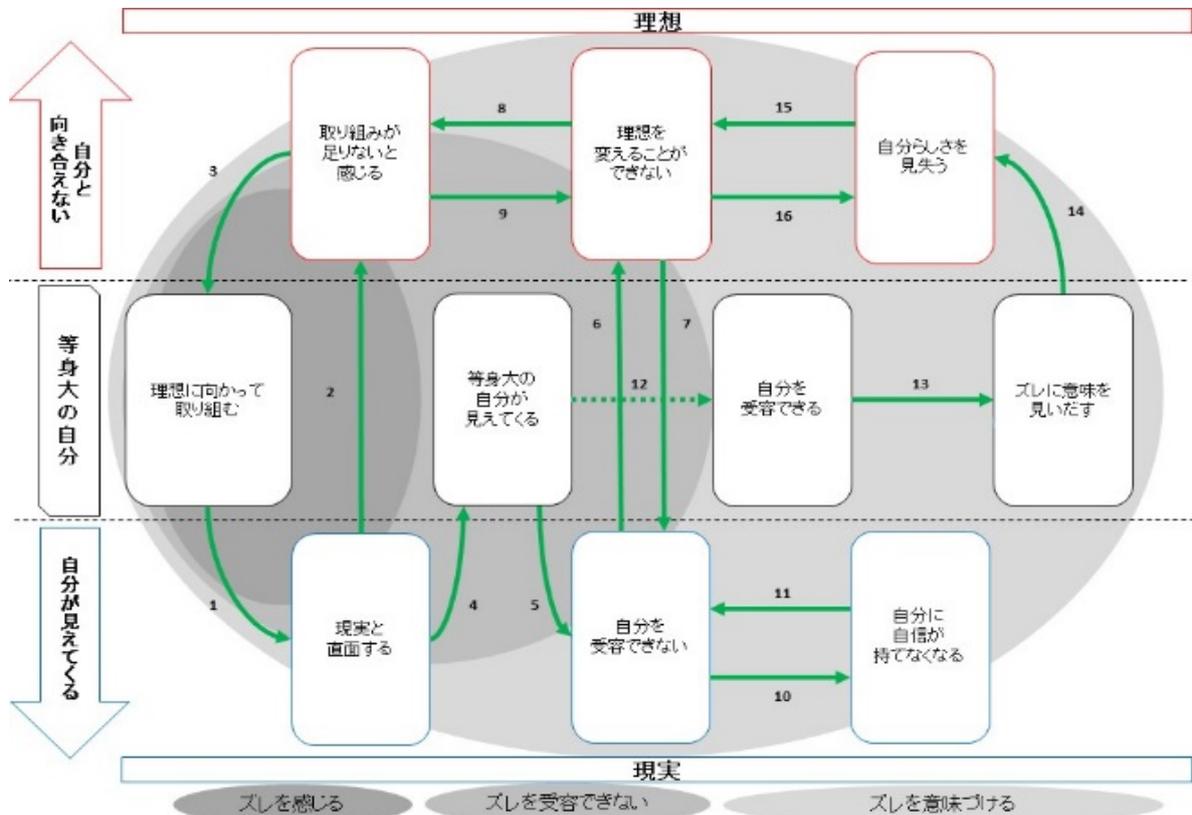


図 1 : 理想と現実の狭間でズレを意味づけるメカニズム